

オスプレイを巡って

飛騨高山・沖縄行動報告

はじめに

安倍政権は、7月21日の参議院選挙での過半数の獲得を得て自民党国防部会と安全保障調査会の新防衛計画の大綱に関する提言を政府に方針として打ち出し、12月に新防衛大綱の発表の方針を打ち出しています。(自民党結党60年になる2015年まで政権を維持し、それまでに「憲法改正」の準備ができればよしという方針に転換しつつあります。それまでに「改正なき実質転換」を追求するつもりです。その中身こそが新大綱になると理解できます。

自衛隊の質的・量的強大化を前提にした「強靱な機動的防衛力」構想がこの大綱の中心的キャッチフレーズです。9条の制約があってもこれだけのことのできれば無理をして中央突破しなくてもよく、「平和憲法下での自衛隊の国防軍化」と言っても過言ではありません。集団的自衛権の行使の範囲の明確化、敵基地攻撃能力の明確化、オスプレイなどを装備する水陸両用部隊の新編制化、(自衛隊の海兵隊化)、そして辺野古への新基地建設の推進。こうした流れの中で安倍政権は、更なる「国際貢献」として、南スーダンへの自衛隊の任務と地域の拡大、「海賊対処法」によるジブチ基地での自衛隊の活動の1年延長

と任務の拡大を決定指定しています。アデン湾での海上自衛隊の活動は、米軍主導の多国籍軍(第151連合任務部隊)に参加することで集団的自衛権行使活動になってしまいます。

個々の反対活動も重要ですが、今述べた流れを阻止するためにも、7月21日の選挙が重要です。「戦争反対、原発反対。憲法改悪反対」を主張する政党の過半数化をめざし、安倍政権の衆参両院過半数かをとめるために選挙協力をする必要性を強く感じています。

6月23日の東京都議選と同じ結果に終わらせないように、あきらめず、頑張りぬきましょう。

飛騨市・高山市でのオスプレイ

低空飛行に関する活動

去る、6月13日に海兵隊による「オスプレイの普天間飛行配備及び、日本での運用に関する環境レビュー最終報告書」が発表されて以来、ただ一つを除いて事態は、この最終報告書通りに進んでいます。沖縄に対しては予定通り。本土での訓練は「キャンプ富士と岩国基地に分遣隊を展開させる」となっており、キャンプ富士だけはまだ実行されていません。政府はすでにキャンプ富士が使用される場合、東富士演習場内にある滝が原飛行場が使用され、修理・

補修は米海軍厚木基地で行うと発表しています。地元の小山町、御殿場市、裾野市の2市1町は、昨年から連携をして住民と共にオスプレイ飛来反対の声を上げています。

東富士にオスプレイが来た場合、一番近い訓練ルートである「ブルールート」が使用され、岐阜県高山市上空を起点にして、長野、群馬、新潟、山形、そして新潟県の日本海へと続くことが予想されます。そういったことから、まずは高山周辺の住民や行政に知ってもらい、飛行に反対の声を上げてもらう目的で、5月23日と24日に高山市と飛騨市に行ってきました。海兵隊航空部隊の基地であった航空自衛隊各務原基地をもつ岐阜県の東海民衆センターのメンバーやあいち沖縄会議のメンバー、地元の人たち総勢15人での行動でした。

東北北陸自動車道を使ってひるがの高原あたりまで行くと、「なるほど、オスプレイが利用したくなる地形だ」とわかります。千メートル級の山と谷が点在し、仮想攻撃目標となる町や村が点在する。千キロの行程を敵のレーダーに捕捉されることなく、攻撃地点に兵士と武器を送り込む。これこそがオスプレイの軍事的能力の开花であり、パイロットの超低空飛行訓練の目的です。先走って言えば、朝鮮半島の地形によく似た地形、オレンジルートもブルールートもよく似ているそうです。

昨年、3月6日に初めて沖縄から無着陸で岩国基地にオスプレイが着陸しましたが、時間的経過と目撃情報から判断すれば、普天間基地から飛び立った

オスプレイは、まず四国のオレンジルートでの訓練をやり、終了してから岩国基地に着陸したことになります。その距離千キロ以上。東富士とブルールートの使用を考えれば、通告のある数日後には普天間基地から直接ブルールートを使い、反転して東富士に着陸すると考えられます。60キロ先に厚木基地があり、必要なら200キロ先の各務原基地に修理目的のために着陸します。ヘリコプターの修理の専門工場でもある川崎重工が存在します。

また、九九自衛隊との共同訓練でいえば、空中給油機能をもつ改造されたC130輸送機が小牧基地にあります。日本国内の航空法の違反し、住民の不安と危険を無視した飛行になります。沖縄ではこれが平日毎日行われています。41市町村の自治体がすべてオスプレイ反対です。安全を守らねばならぬ同じ行政として沖縄の怒りを理解し、上空を飛ぶ前に反対の声を教えてくださいという要請行動でした。

これで終わりではありません。基地を持つ静岡、岐阜、愛知の運動が協力して、東富士への飛来と利用ストップに向けた陣形を作る出発点として今回の高山・飛騨市行動を位置づけたと思います。合言葉は「沖縄にも本土にもオスプレイはいらない」、これです。

沖縄報告 高江・辺野古・オスプレイと慰霊の日

島根県で活動する「山陰・琉球塾」が呼びかける沖縄平和連帯行動に、6月22日、23日、24日参加してきました。目的は、東村高江の座り込みに

参加すること、辺野古の現状を見てくること、普天間基地にあるオスプレイを見てくること。6月23日(慰霊の日)ということもあって、平和祈念公園、

陸軍病院本部慰霊の塔、ひめゆりの塔、南風原文化センタースケジュールに入っていました。たった1日でしたが、地上戦を経験し、その記憶を確実に次の世代に伝え、現在の「反戦・平和」への強い意志として今を生きている沖縄の6月23日を味わってきました。最後の日、佐喜真美術館館長のつれ合いさんのい屋上で話を聞きました。「ほら、朝からかい声の私の声すら聞こえなくなるでしょう。日本の人口の1%の沖縄がどんな雄頑張ってもこの現実を変えることができないのよ。しかも戦争になればまた沖縄が最初に攻撃されるでしょう。本土に帰ったら沖縄の何を伝えてくれるのでしょうか。うふふ。」という言葉と笑い声に、沖縄の落胆と悲しみと、しかし強い意志を感じながら那賀空港に向かいました。この旅の個人的な本当の目的は、高江の座り込みに参加することでした。公示妨害のただ一人の被告となつている伊佐さんとの約束、必ず高江に行きます、を4年目にして実現しましたが、スケジュール上、2時間だけの参加でした。ただ一人、伊佐さんの連れ合いさんがテントにいました。すでにテントの先200m地点のヘリパットはほぼ完成し、オスプレイが使用しているとのこと。雑魚寝ですが500円で泊まれる施設もありますからまた来てくださ。辺野古からでも大変ですものね。もっと多くの人が来て、見て、知ってほしいですよ」と話し

てました。必ずまた来ますと言って辺野古へ向かいました。

辺野古についたら観光バスが3台漁協前の空き地に駐車中。もとあった座り込みテントから300mにある岸壁の上にテントはあり、高校生たちにヘリ基地反対協の安次富さんが熱心に説明していました。修学旅行の生徒たちに何やら熱心に話をしていらっしゃるという印象でした。ゆったりとした時間の中で、しかし次に備える意志的な辺野古を感じながら普天間基地に向かいました。

もう一つの目的、オスプレイをみることに。喜数高台から見ることができず、降りて真栄原交差点にいちばん近いゲートの金網に沿って左まわりに歩くことができ、ゲートから300m地点からようやく見ることができました。格納庫から半分出ている隊長機がおり、6機を確認できました。あの沖縄国際大学に近い側に駐機場があることになりました。参院選挙後さらに12機が来る予定。みんなでこそつと右を投げて帰りました。

最後に

自衛隊とオスプレイの訓練について次回報告します。ヘリ空母「ひゅうが」を使って発着訓練がサンデイエゴ沖でなされ、この6月15日の訓練は、広く報道されています。防衛大臣の「オスプレイ導入発言」もあり、強く注視し続ける必要があります。